

Wood stove

薪ペレットコンビネーションストーブ

AKIMIX

アキミックス

Reference no 6190 44

ペレット燃料を使うときは “必要なメンテナンス” がされていること
（“2 - ペレットを燃やす” からのページを参照）

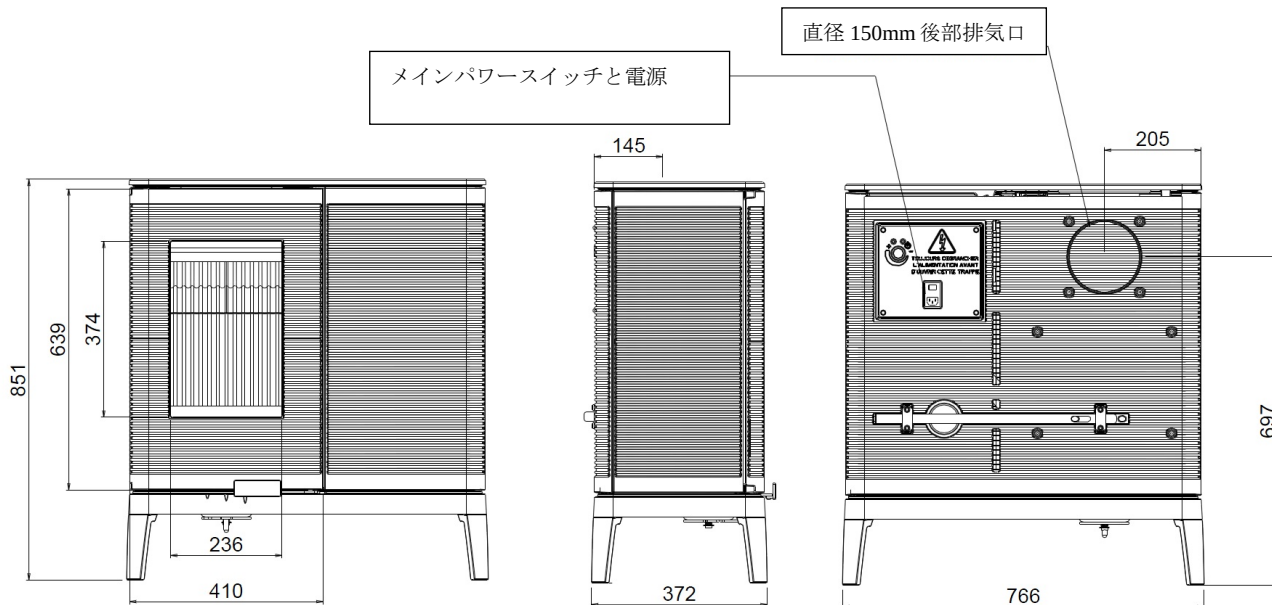
ストーブ設置とユーザーガイド

ご使用前に必ずこの取扱説明書を読んでいただきご理解ください。

このストーブは薪又は木質ペレットを燃料として燃焼させることができる薪、ペレットコンビネーションストーブです。

EN 13240 標準規格に準拠した非連続使用:

最大出力	7 kW
熱効率	76 %
CO2 濃度	0.10 %
グリーンファイアークラス	★★★★★★
粉塵濃度 13% O2	26 mg/Nm ³
排煙温度	312 °C
推薦される薪のサイズ	直径 25 cm の薪 薪の最大横長さ 38 cm
Smoke mass debit	6.6 g/s
床の保護 可燃性材料の床や熱で劣化する床にはこのストーブを置かないでください。もし可燃性材料の床の上にストーブを設置する場合は床を高温から保護するために、1 平方メートルの四角形の金属板またはタイルなどの中央部にストーブの置いてください。 隣接する可燃物質からの最短距離: 後ろ 80 cm、横 80 cm 周囲の表面が不可燃性で熱によって劣化しない材料で出来ている場合、その寸法は 40cm まで近づくことができます。 (壁の温度は 200 °C に達することがあります。)	
薪以外の燃料	木質ペレット
出力 (最高 / 最低) と 毎時消費量	6.5 kW- 1.9 kg/h / 3.5 kW- 0.85 kg/h
薪の長時間燃焼時間	約 8 時間



AKIMIX ストーブの詳細

ストーブの重量	181 kg		
燃焼チャンバー	ポスト燃焼システム		
煙突との接続部直径（上部、後部）	直径: 150 mm		
サイズ	高さ 851 mm	横幅 766 mm	奥行 372 mm
ドアサイズ	高さ 639 mm	横幅 410 mm	
ガラスサイズ	高さ 374 mm	横幅 236 mm	
注意書き	ポッパーカバーの下に貼られています。		
ペレットタンク容量	15 kg		
電源	100 V -50/60Hz（必ず付属の 230V 用変圧器をご利用ください。）		
消費電力	40 W		

安全のために

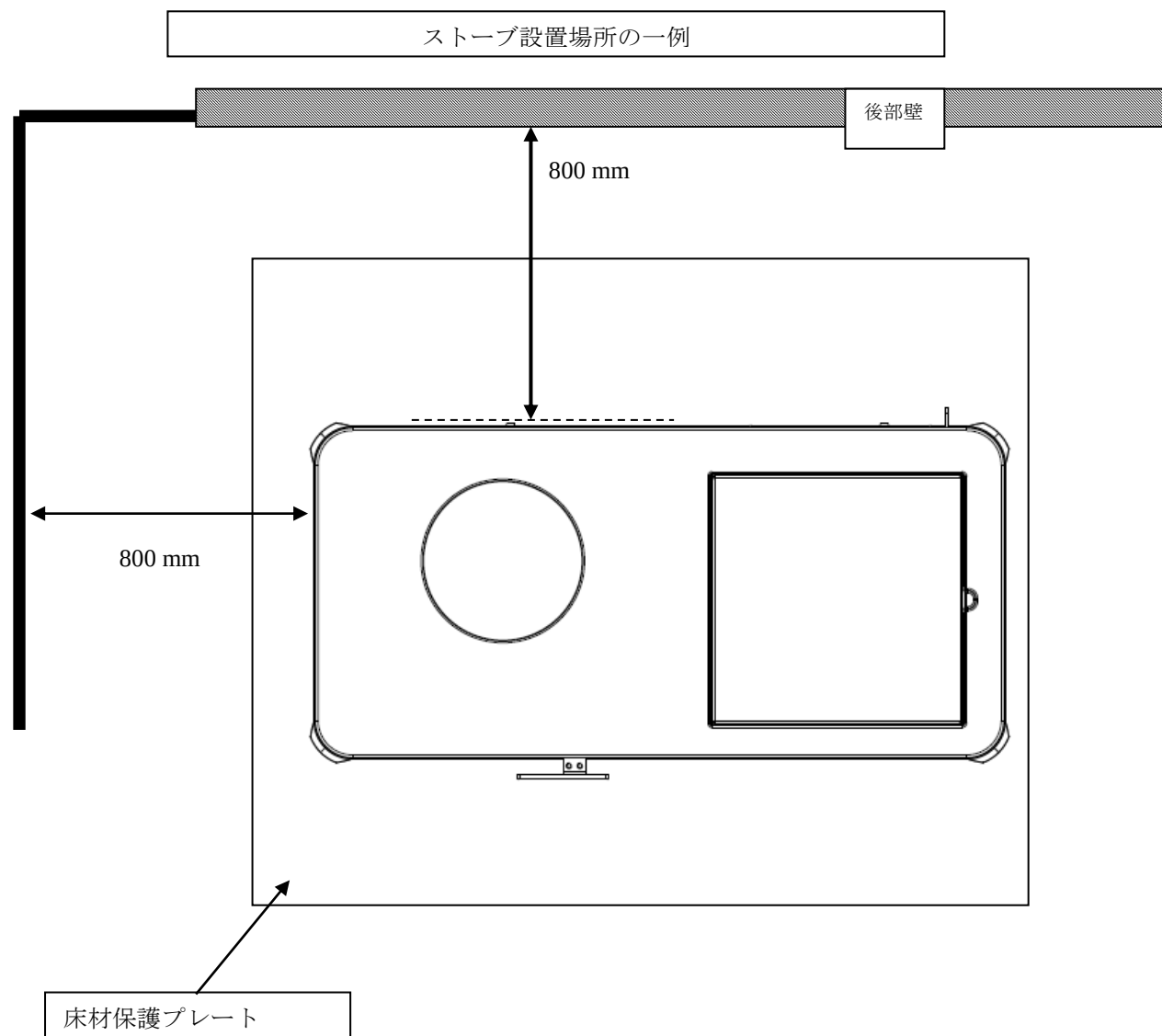
- **警告:** もし木質ペレットがスクリーン内に詰まってブロックした場合は、薪を燃やすこともしないでください。スクリーン内のペレットが過熱されすぎる可能性があります。販売店の方にスクリーンの分解、ペレットの詰まりを直してからストーブをご利用ください。
 - **警告:** 点検作業はこのストーブを熟知した販売店技術者にお任せください。
 - **警告:** 点検時には必ず電源からコンセントが抜かれていることを確認してください。
 - **警告:** もし電気ケーブルがおれていたり損傷している場合は速やかに販売店へ連絡して感電しないために処置を行ってください。可燃性物質や熱により劣化するような物はストーブから最低 1.5m 幅を保つようにしてください。洗濯物の乾燥のためにストーブの前に置かないようにしてください。火事の危険性があります。
 - もし煙道火災が起きた場合は速やかにストーブを停止し、消防車を読んでください。
 - ストーブを使用中、あらゆる側面が熱くなります。火傷をしないためにも人が多く出入りするような場所では設置しないでください。
 - ストーブの改造等は絶対に行わないでください
 - メンテナンス作業時（灰掃除など）以外には燃焼室ドアは必ず閉めておいてください。
 - 良く乾いた薪、木質ペレット以外のものを燃やさないでください。
 - 交換部品は必ずインビクタ純正部品をご使用ください。
 - 取扱説明書は必ず大事に保管してください。
 - この取扱説明書にはこのアキミックスストーブを設置、使用、整備するための最も適した説明がされています。
 - 小さな子供、身体的精神的障害者、またこのストーブの使い方を知らない方は取扱いをしないようにして下さい。
-
- ストーブの外装は液体洗剤などで洗わないで、簡単に埃を掃う程度にしてください。
 - 保証について:
 - 保証が無効になり場合があるので以下のことに注意してください。
 - ➔ ストーブと煙突の煤掃除は最低 1 年に 1 回行ってください。
 - ➔ ユーザーがストーブの使い方とその使用限度を十分理解しているか。
 - ➔ 交換部品は必ず純正部品をご利用ください。

設置方法

周囲の表面温度が室温より 65 °C 以上にならないようにするには、以下で示す図で示す距離をおいてストーブを置く必要があります。

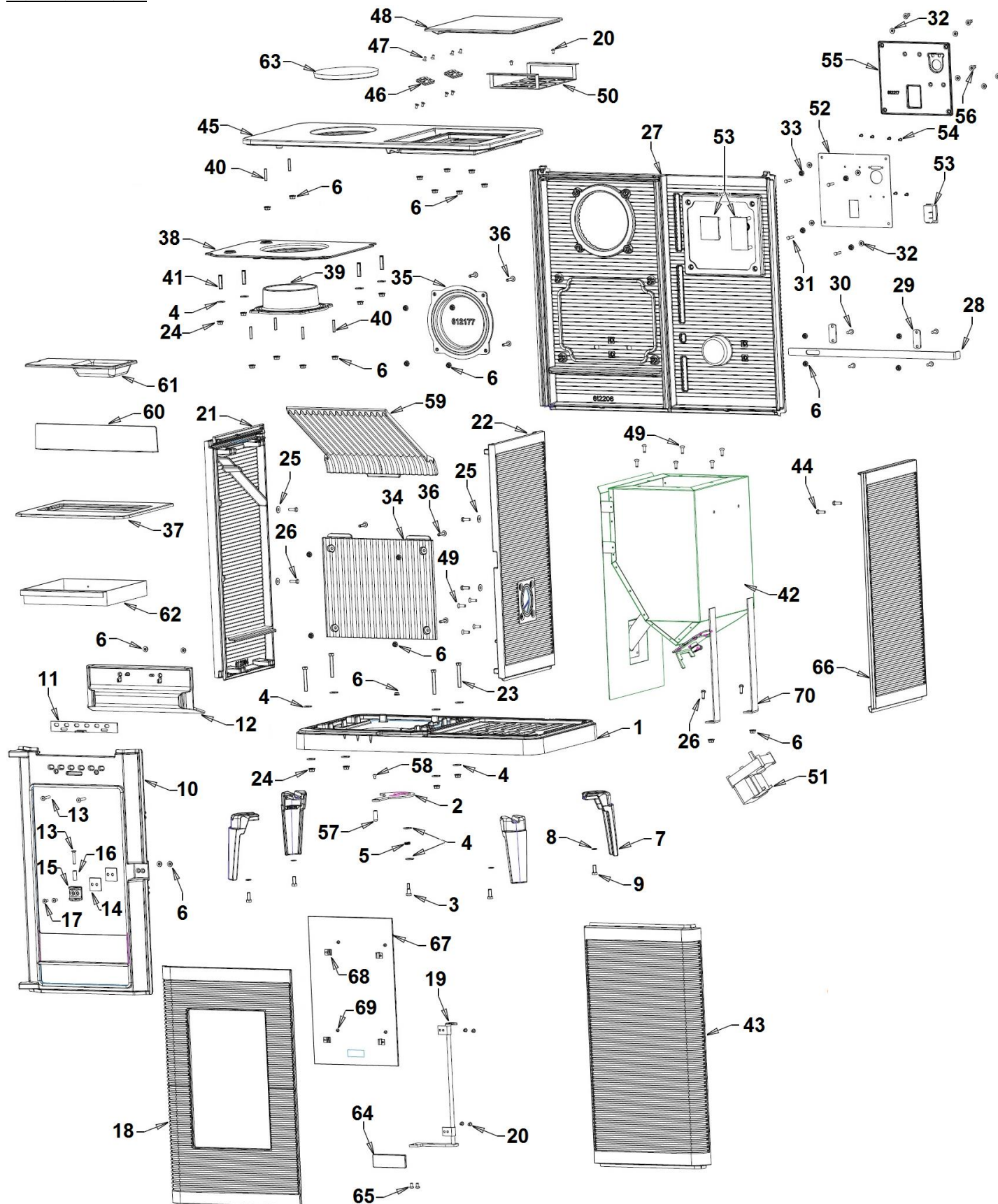
もし周囲の壁が可燃性材料でなく、また熱によって劣化しない材料の場合（壁の温度は 200 °C に達することもあります。）、離隔距離は半分の 400 mm まで近づけることができます。

これはペレットを使うときに動かす後部スイッチ操作とペレット供給装置をメンテナンスするときに最低限必要な距離（空間）です。



上記による、熱によって劣化しない材料の場合で遮熱板を設けた場合は離隔を 260mm 迄近づけることができます。
（詳細はペレットストーブ周辺温度推移実証試験報告書を参照ください）

構造拡張図:



構成部品リスト:

図番	数量	部品名	部品番号
1	1	Base	F612200U
2	1	Regulator plate	AT610443A
3	1	Heavy duty locking screw	AS618100
4	10	Washer L D8	AV4110080
5	1	Spring	AS750125
6	31	Nut M6	AV7220060
7	4	Foot	F612174U
8	4	M8 locking washer	AV4150080
9	4	TH M08x20 screw	AV8408200
10	1	Front plate	F612201B
11	1	Window regulator	AT610442A
12	1	Air guide	F612213B
13	3	FHC M6x35 screw	AV8636350
14	2	Locking wedge	AT610444
15	1	Locking bracket	AT610441B
16	1	Locking connector	AS610235A
17	2	FHC M6x16 steel screw	AV8636166
18	1	Hearth door	F612202U
19	1	Control rods	AS610234B
20	6	BHC M5x8 screw	AV8685080
21	1	Left-hand side	F612204B
22	1	Internal surface	F612205B
23	4	TH M8x60 screw	AV8408600
24	8	Nut M8	AV7220080
25	4	Washer L D6	AV4110060
26	6	TH M6x20 screw	AV8406200
27	1	Rear	F612206B
28	1	Post-combustion regulator	AT610451A
29	2	Limiter	AT610112A
30	4	TBEHC M6x20 screw	AV8696200
31	4	ThM5x25 screw	AV8405250
32	8	M D5 washer	AV40900050
33	4	M5 nut	AV7100050
34	1	Floor plate	F612209B
35	1	Upper insert	F612177B
36	8	TBEHC M6x30 screw	AV8696300
37	1	Hearth grill	F612207B
38	1	Feed channel	F612216U
39	1	Nozzle	F610271B
40	6	M6x30 stud	AV8706300
41	4	M8x40 stud	AV8708400
42	1	Hopper	AT610454D
43	1	Front right-hand side	F612211B
44	2	TH M6x10 screw	AV8406100
45	1	Top	F612214U
46	2	Hinges	AS610120B
47	8	FHC M5x10 screw	AV8635100
48	1	Granule cover	F612215U

49	10	FHC M6x20 screw	AV8636200
50	1	Hopper grid	AT610453A
51	1	Motor gears	AL604415B
52	1	Electronic kit holder	AT610452A
53	1	Electronic kit	AL0061961
54	6	BHC M4x10 screw	AV8684100
55	1	Electrical cover	F612217B
56	4	M5 cover nut	AV7140051
57	1	Regulator button	AS750120B
58	1	FHC M6x10 screw	AV8636100
59	1	Deflector	F612208B
60	1	Fire-dog	F612212B
61	1	Crucible	F612116U
62	1	Ash Pan	AT610166A
63	1	Insert	F610443B
64	1	Handle	AS900109B
65	2	BHC M6x10 steel screw	AV8686106
66	1	Right-hand side	F612210U
67	1	Protective glass	AX606190A
68	4	Clamp	AS700180
69	4	TCPZ M4x6 screw	AV8644062
70	2	Hopper base	AT610455B

重要

この取説に加え、添付の“**INSTALLATION AND USAGE GUIDE FOR WOOD BURNING STOVES**”をよくお読みください。

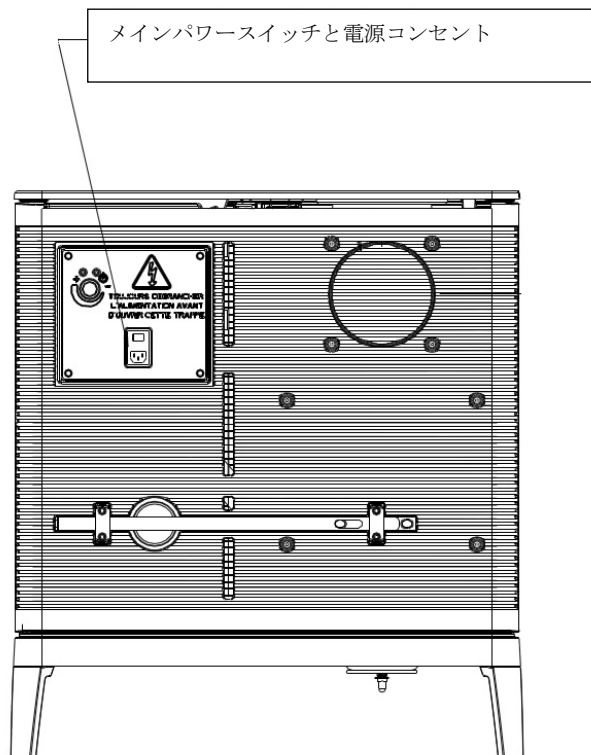
使用ガイドライン

ストーブが運転中、煙突内の負圧は **6 ～ 12 パスカルの間**で保たなければいけません。この値は負圧測定器が煙突に取り付けたままにする負圧モジュレーターで指定の値に合わさなければいけません。

電源接続：

付属の電源プラグをストーブに接続します。
電源は容易に接続できる場所に準備してください。
ストーブが設置されたら電源接続プラグが見える場所においてください。電源ケーブルがストーブの熱い部分（煙突近くなど）に触れないようにしてください。
電気回路には現行の規格に準拠したアースワイヤー、回路ブレーカーを備えています。電気ケーブルはストーブの熱い表面に接触しないようにしてください。

ATTENTION: the flue must be equipped with its own independent earth wire



I - 薪を燃やす

注意: ストープ使用中はペレット燃料フタが閉まっていることを確認してください。

ユーザーガイドライン

以下に推薦する薪をお使いください。: よく乾燥した薪 (湿度 20 %以下のもの) 伐採後 2 年以上 (ブナ、ホーンビーク、オークとパインは 5 年以上のもの)

灰皿は灰掃除をするとき以外はその位置から動かさないようにしてください。耐熱手袋をはめてドアを開けてください。部屋に煙が入らないように部屋内の気流を止める必要があるかもしれません。(換気扇を止めるなど)

最初の使用

最初点火するとストーブの塗装の匂いがすることがあります。その場合は窓を開けるなどして十分に換気してください。または設置前に外で火をつけて匂いが出なくなりストーブが冷めてから設置を行ってください。

その塗装の成分を自然に拡張するために最初は低めの燃焼温度で使うことをお勧めいたします。

着火:

燃焼炉の上に巻いた新聞紙 (または着火剤) そしてその上に 3 kg ほどの乾いた小枝または細く割った木を置いてください。火を着けドアを閉めて出力調節器を全開 (右) にしてください。火が大きくなってきたら大きめの薪を入れて出力調節器を中央に戻してください:

- ・ 炎の高さは燃焼室の高さの 3 分 2 くらいの高さまで上がるようにしてください。
- ・ 炎を高めるのに給気量が十分であるか確認してください。もし必要であれば出力調節器をしばらくの間もう一度開けてください。

または十分監視しながらドアを少しだけ開けた状態で給気を多く取り込み炎が大きくなるを見てください。炎が安定したら必ずドアは完全に閉めてください。

普通の燃やし方で長時間使用するとき:

通常 30 分から 45 分間おきに薪を追加してやる必要があります。普通の燃やし方により薪の燃焼は早くなり温度も早く上がります。また薪の燃費を良くするために長時間燃焼することもできます。

普通の燃やし方にするには

- 毎回 2 kg ほどの広葉樹の薪を足していく
- 12 パスカルの煙突内負圧を保つ
- 残り火の高さが 3 cm くらいになれば約 30 分から 45 分ごとに薪を足す
- 出力調節を“normal output” (通常燃焼) 中央の位置に合わせる(11 ページ参照)
- 薪があまりにも固すぎたり、湿っていたりすると良く燃えずなかなか暖まらないことがあります。このような状態では炎が小さくなりなかなか暖まらないので、火箸で薪の位置を移動させて火が良く薪に移るようにしてください。その時火種が扉から外に落ちないように気を付けてください。

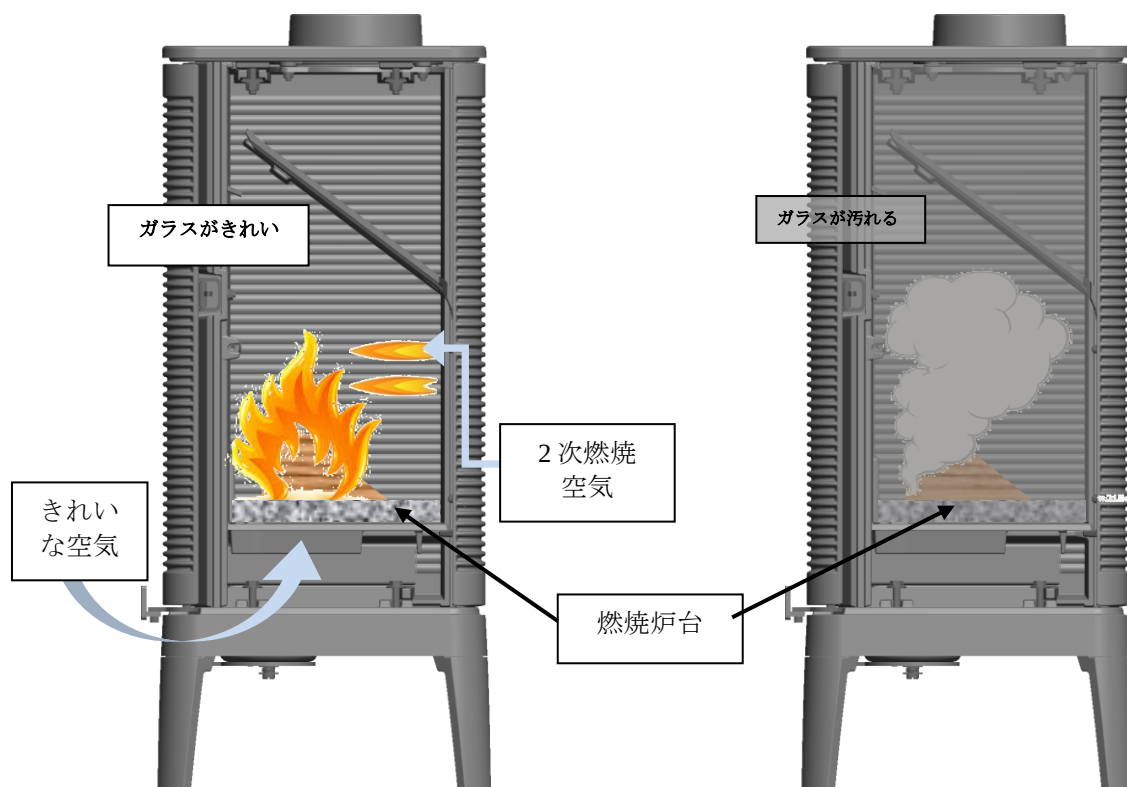
長時間燃焼をするには

- 6 kg ほどの割っていない大きな薪を入れる
- 負圧を 6 パスカルに保つ
- 点火して炎が安定したら給気口レバーを左端の“usage over a long period” (長時間燃焼) の位置へ合わせます。
- この燃やし方によると 8 時間くらいまでゆっくりと炉内で薪を燃やすことができます。

どちらの燃やし方にしても（通常燃焼又は長時間燃焼）最初の点火がきちんと行われ炎が上がっていること。
もし炎が上がらない場合は 出力調節器を右端の点火ポジションへ移動させ給気量を増やしてください。
煙を出しながら不完全燃焼を続けることは避けてください。ストーブや煙突内を汚すだけでなく健康や環境にも良くありません。

良い燃焼 = 良いストーブ
“暖かくきれい”

炎のない悪い燃焼 = 悪いストーブ
“暖たまらず汚れる”



● 出力調節セット:

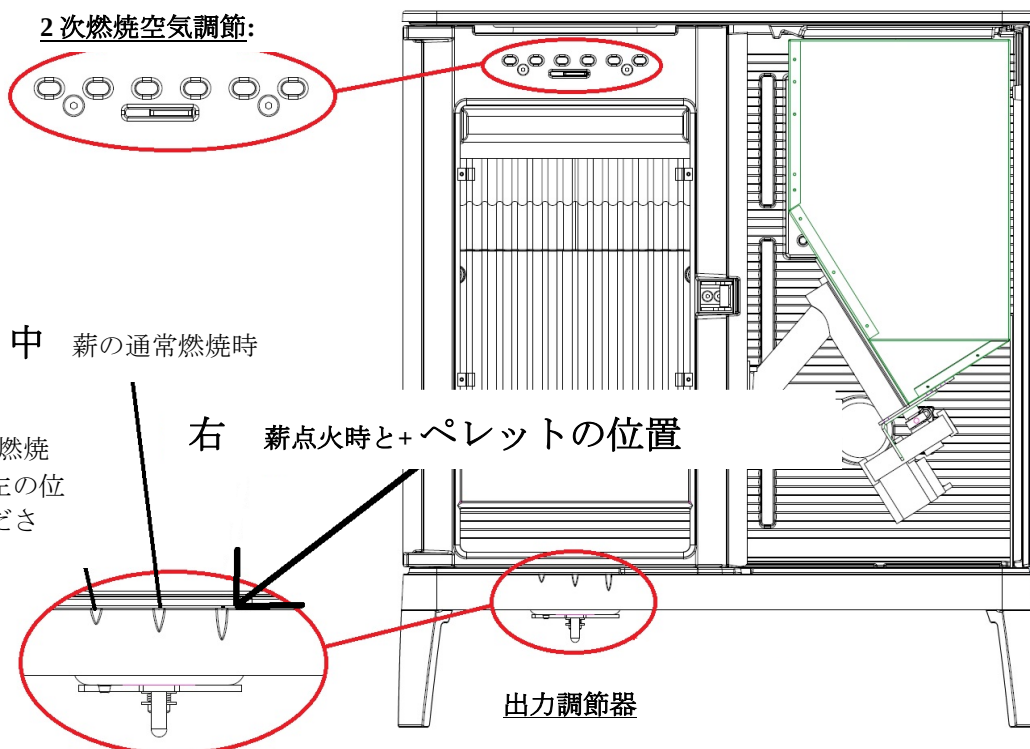
- 出力調節は中“normal output” から左“usage for long periods”へレバーを動かして調節します。
出力調節は薪を燃やすときとペレットを燃やすときにも調節します。
ペレットを使うときの説明は「2 - ペレットを燃やす」のページを参照してください。
- 点火時:** 薪を使う時、出力調整は“normal output” の位置に合わせて素早い点火のために給気量を増やします。
- 30 分間以上この位置に出力調節を残さないでください。機器がダメージを受ける場合があります。点火時には必ず炎の上がり方を監視してください。
- 2 次燃焼空気調節:** 2 次空気調節器は完全燃焼させるために常にオープンにしておいてください。 This setting needs to be adjusted only with higher than recommended airflows (see above) This setting can be changed in this case to obtain a satisfactory output. Once adjusted, do not change the secondary airflow setting to modify the output of the appliance. Use the output regulator to increase or decrease output.
- ポスト燃焼空気調節:** 完全燃焼をさせるために 2 次燃焼空気調節は常にオープンにしてください。

調節器は熱いので火傷をしないよう付属手袋をはめて作業してください。

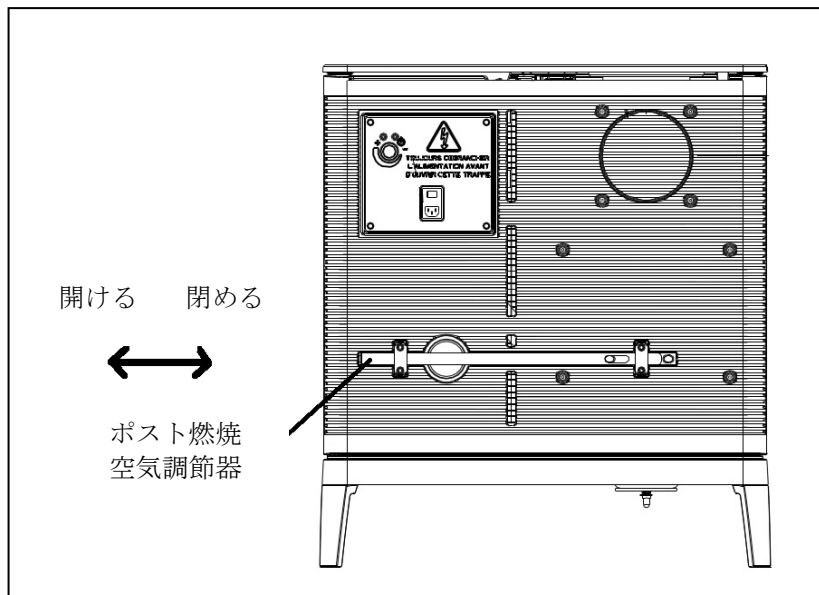
出力調節器と2次燃焼空気調節器

- ストープの下側にある出力調節器は薪とペレットの燃料を変えるときに調節します。

2次燃焼空気調節:



ポスト燃焼空気調節



薪を燃やすとき:

- 出力調節器を中の位置に合わせ。
- 2次燃焼空気調節はオープンにする
- ポスト燃焼空気調節器もオープンにする

ペレットを燃やすとき:

- 出力調節器を右の位置に合わせ。
(一番右端へ持っていく完全にオープンにする。)
- 2次燃焼空気調節は閉める
- ポスト燃焼空気調節器も閉める

2 - ペレットを燃やす

ペレットを使う前に - 重要です:

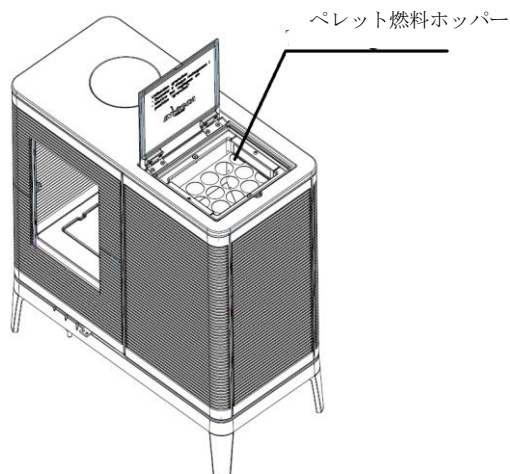
- “ペレット”の位置に出力調節を合わせる (11 ページ):

**重要 です ! = 出力調節器は一番右側へ
回して完全に開けてください。**

- ペレットスクリーが何かの異物で詰まっていないか確認してください。
- 燃焼ポットを取り外して灰の掃除して燃焼用空気が通るようにして間違いないように元の位置に戻してください。
- 火かき棒、灰掃除機などを使って燃焼ポット下に残る灰を掃除して灰皿の灰も取り除いてください。

燃焼ポットと灰皿の周りは常にきれいにしてください。

- 燃焼炉ドアーは必ず閉めてください。
- ペレット燃料ホッパーも閉めてください。



- 本取説をよくお読みください。

初回使用:

4 - 2 次燃焼空気調節は閉める

ペレット燃料を使う時

1- ダイアルを時計方向に回してスイッチをオンにします。

2 - ポスト燃焼空気調節器も閉めます。

3 - 出力調節器を右の位置に合わせます。

- 初めて使うときは、まず後ろの電源スイッチをオンにします。

(一)

- ペレット燃料で着火するには:

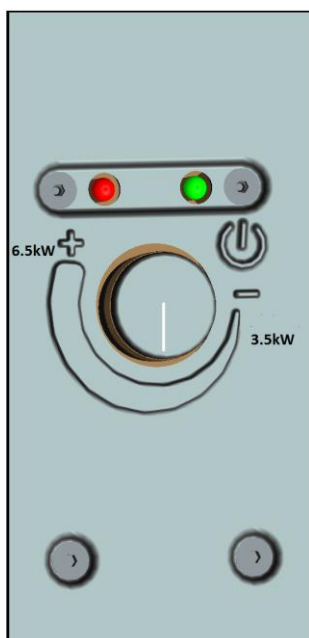
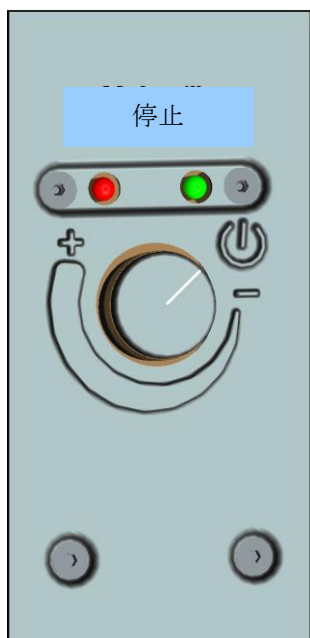
- 出力調節器を“Granules”と表示のある右の位置に合わせます。(11 ページの図を参照)
- くしゃくしゃに丸めた新聞紙(光沢のある紙は使わないでください。)又は着火剤を燃焼炉に置き、その上に一掴みのペレット燃料を置いて、後ろのダイヤルを回して最低レベルに合わせてください。火を着け燃焼炉ドアを閉めます。着火時は燃焼炉ドアを少しだけ開けてより給気を送るほうが素早く着火する場合がありますが、そのときは必ず監視しておいてください。
- 数分後ペレット燃料に火が着いたかどうか確認してください。
- 後ろのダイヤルを回してペレット燃料の供給量を変えます。= 下を参照してください。

着火は手動で行います。

着火が出来たらペレット燃料から炎が出ている見てください。

もし炎が十分でなく煙が出ていたらダイヤルを反時計回りに回してペレット供給を止めてください。

自動的にペレット燃料が供給され炎がきれいに上がるまで 30 分間ほど監視して下さい。



- ペレット火力調節: 出力を上げるにはダイヤルを時計方向に回します。最高 6.5kW の出力が出ます。

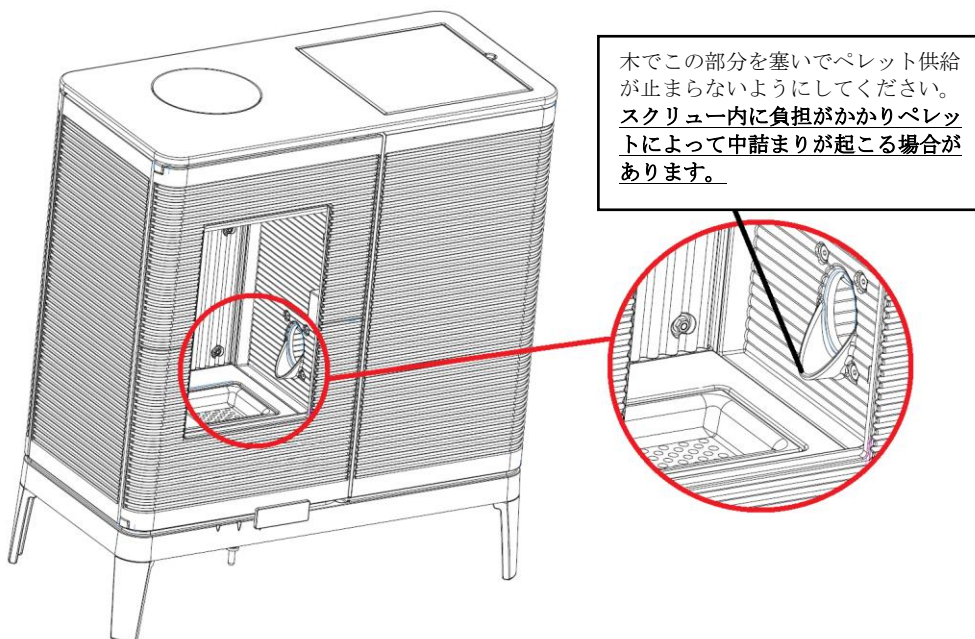
● グリーンランプ ON = ペレット供給可能状態
OFF = ストープ停止

● レッドライト ON = ペレットスクリュウが回転して供給中
OFF = ペレットスクリュウがブロック

出力:	運転時間:
3.5 kW	最大 17 時間
6.5 kW	最大 8 時間

1. ペレット燃料から薪へ変えるとき

- 灰皿を外して灰を掃除し、燃烧ポットの空気穴が塞がらないようにします。
- ペレット供給ダイヤルを最小にします。
- 出力調節器を中 “Logs” の位置に合わせ (11 ページ参照) 小さな割木を燃えているペレットの上に乗せていきますが、その割木でペレットの供給がブロックされないように気を付けてください。(下図参照)

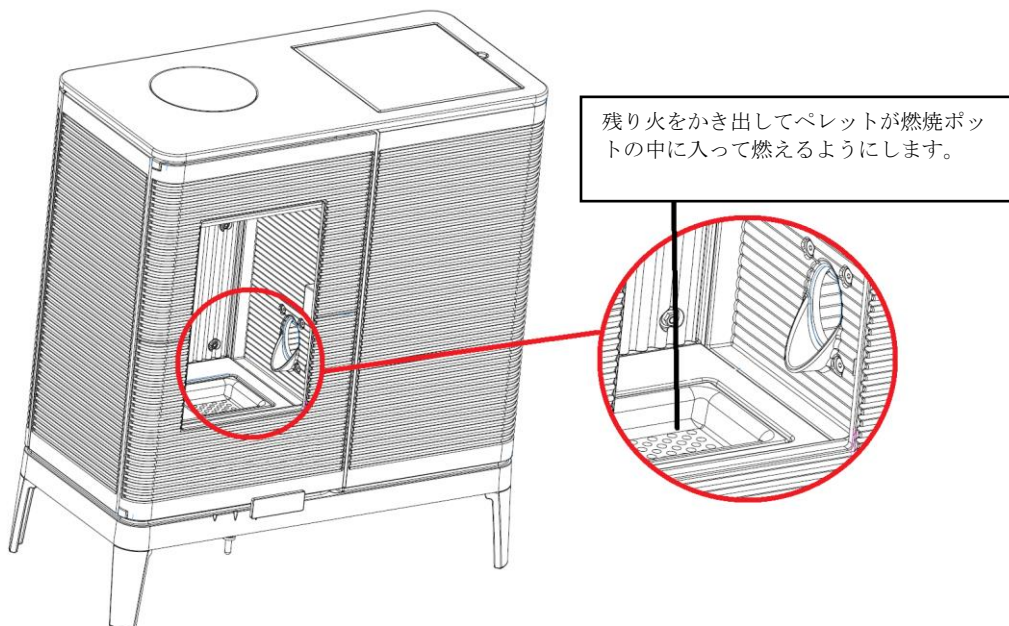


- 小さな割木に火が着いたらペレット供給を完全に止め、燃烧ポットの穴をなにかで突いて給気が十分にできるようにしてください。
- 薪を追加して炎を大きくしてください。詳しくは **1- 薪を燃やす** を御参照ください。

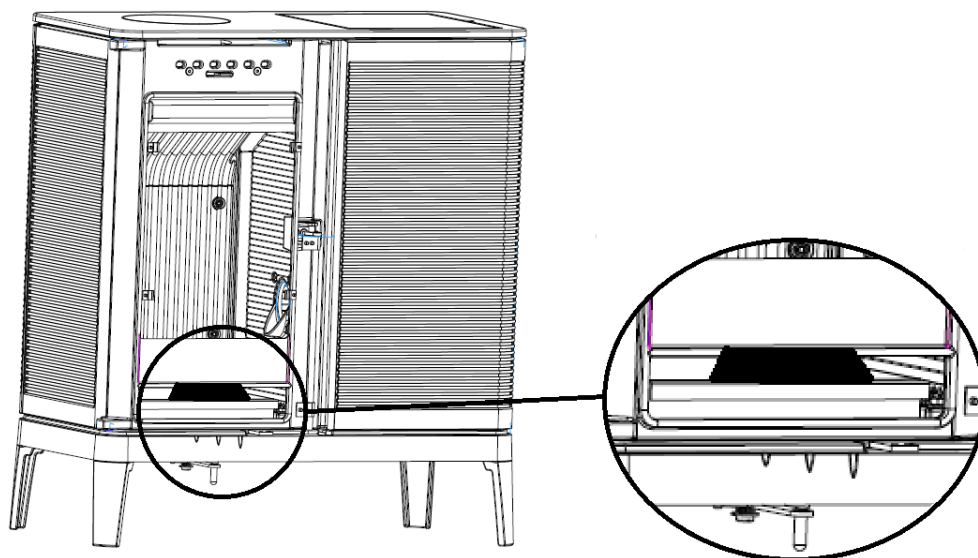
2. 薪からペレット燃料へ変えるとき

ペレット燃料へ移動するには:

- 薪が燃えて火種小さくなるまで待ちます。
- 出力調節を右 “granules” に回します。(11 ページ参照)
- ペレット供給が薪で邪魔されていないか確認し、火かき棒で燃烧ポットの火種を平らに伸ばします。(下図を参照)



- 火かき棒を使って燃焼ポットの灰を移動させてください。
- 灰皿の灰も必要であれば出して、灰皿と燃焼ポットの間に灰が詰まっていないことを確認してください。（下図参照）

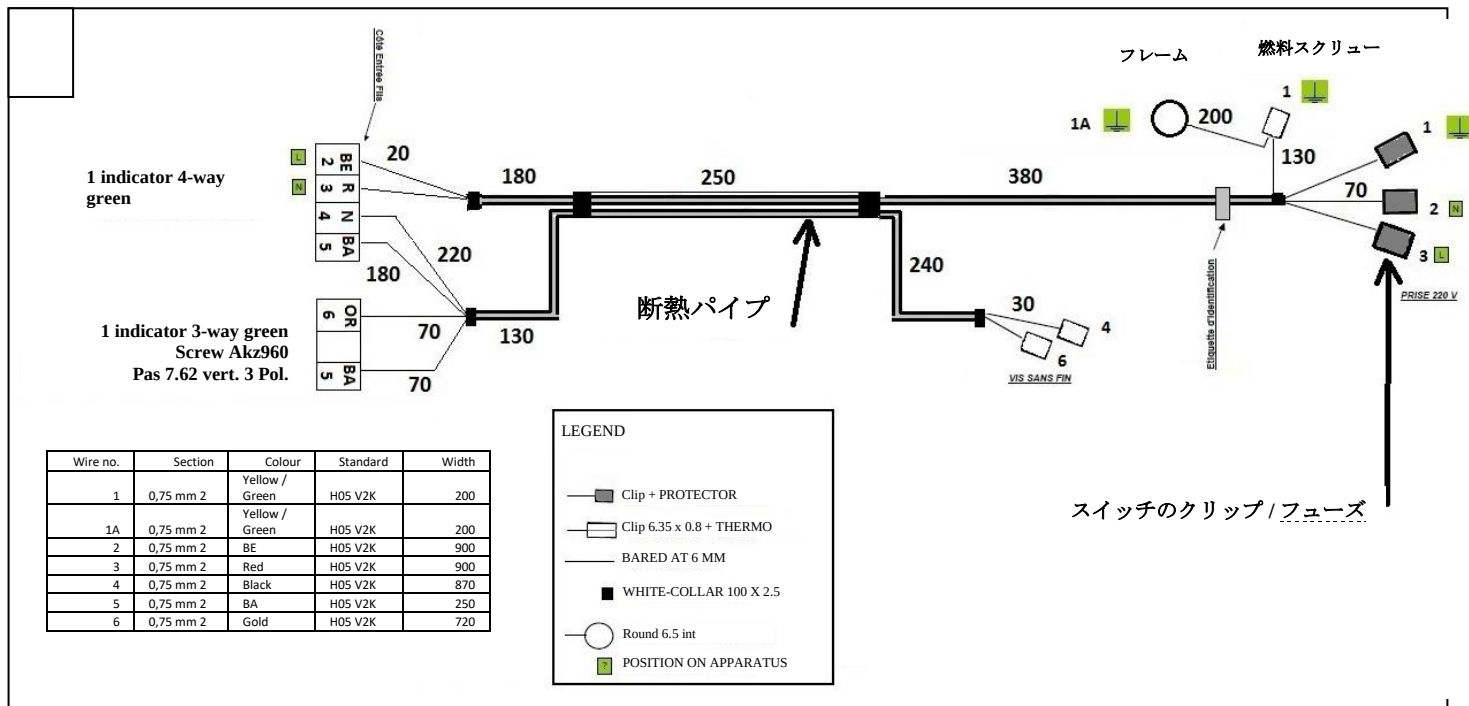


- 後ろのダイヤルでペレット供給量を調節します。
- 数分後ペレットに火が着いたかどうか確認してください。

薪からペレット燃料へ変える作業には注意が必要です。

30 分間ほどストーブを監視して、間違いなく自動供給されるペレット燃料に火が着いて安定して燃えているかどうか確認してください。

3 テクニカル インフォメーション



1. 配線図:

2. 問題が発生したら:

	原因:	解決策:
LED ライトが赤と緑で交互に点滅	パワーカットがあり安全のために自動的に停止しました。	.再スタートさせてダイヤルをペレット供給にセットしてください。

	原因:	解決策:
ペレット供給スクリューがブロックした	ダイヤルを戻すと LED ランプは消える。 ペレットがスクリューの中で詰まった可能性がある。 考えられる原因は: - 推奨メンテナンスが正しくされていない (12 ページ参照) - 燃焼ポットが正しくセットされていない - 燃焼ポットのシールがはがれていないか - ドアのシールがはがれていないか	- 電源スイッチがオンになっているか (—) - 電源ケーブルがしっかりとコンセントに入っているか - わからない場合は販売店にお問い合わせください - 薪を燃やさずストーブをしばらく止めて販売店にお問い合わせください。: - 電源を切り電源ケーブルをコンセントから外す。 - N°1 と N°2 の順で分解作業を行う (17 ページ) - Combine - ギアモーターを手動で回してスクリューを回転させる - 燃焼室からスクリューに詰まったペレットを何かでつつきながら出す

情報: ペレットのサイズは直径 6 mm の木質ペレットをご利用ください。サイズや種類の異なるペレットを使うとスクリューをブロックする可能性が高くなる場合があります。

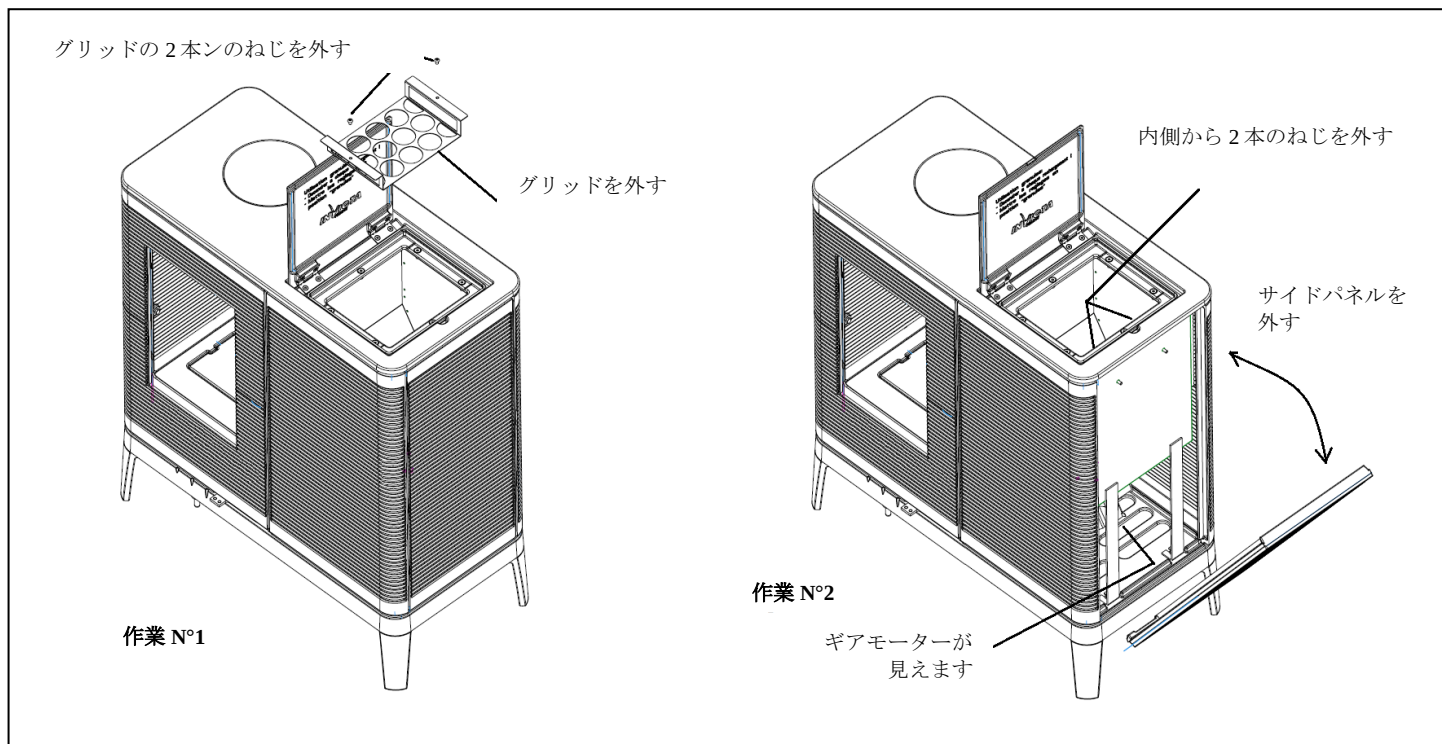
3. 点検作業

ペレット燃料タンクとギアモーターの点検 作業

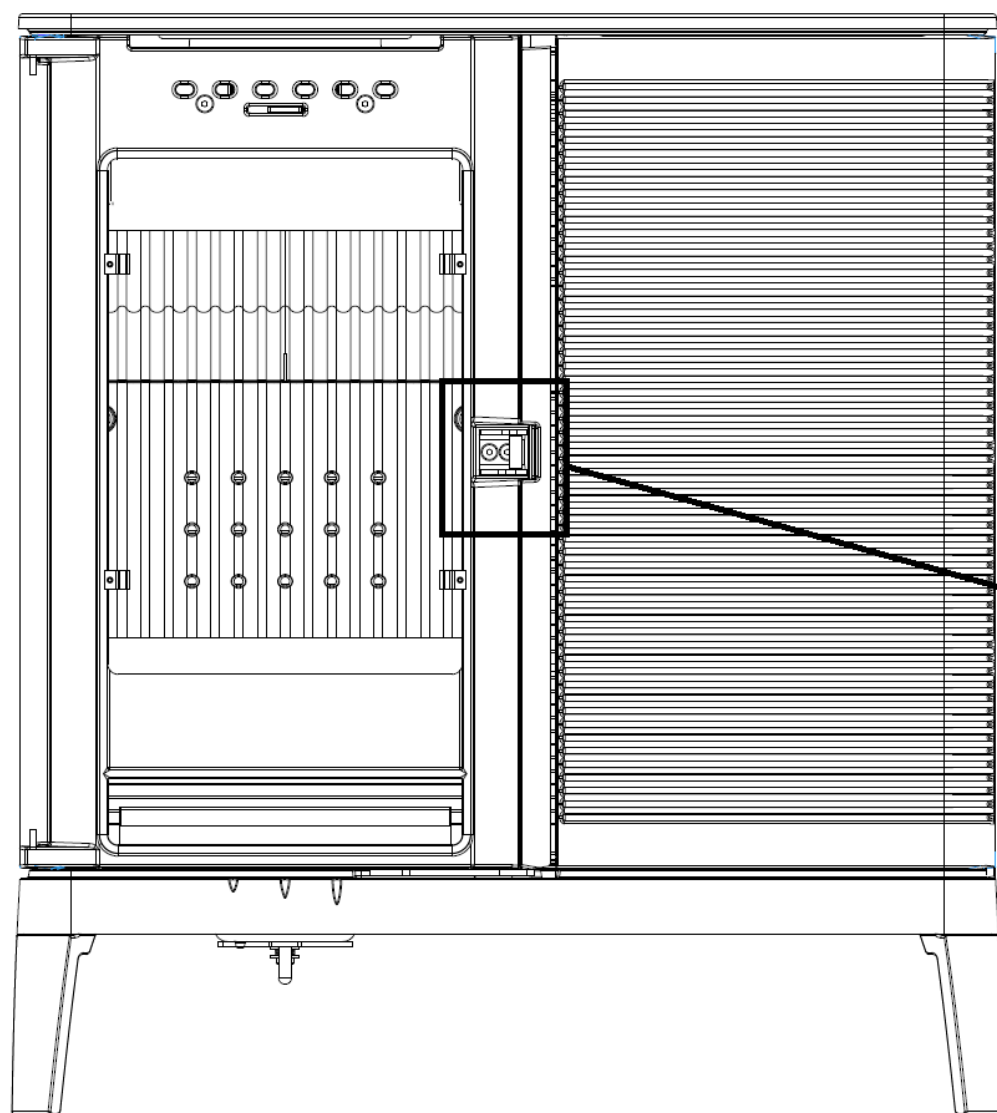
作業中は必ず電源を切って電源ケーブルを外してください。

作業 N°1	作業 N°2
燃料タンクから残ったペレットを取り除く： - グリッドを止めている 2 本のねじを外す - 保護グリッドを外す - ペレットを取り除 - 保護グリッドを再度取り付ける	ギアモーターの点検： - 点検作業 N°1 を行う - サイドパネルを持ちながらタンク内の 2 本のねじを取り外す - サイドパネルを外す - 逆の手順で組み立てる

3 - タンク内ならペレットや異物を取るには ギアモーターを点検するには



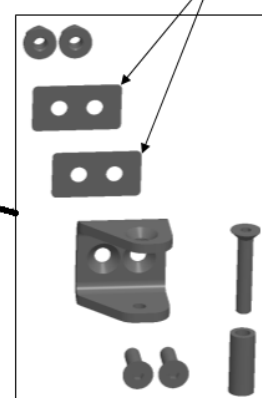
4 - ドアーの調整



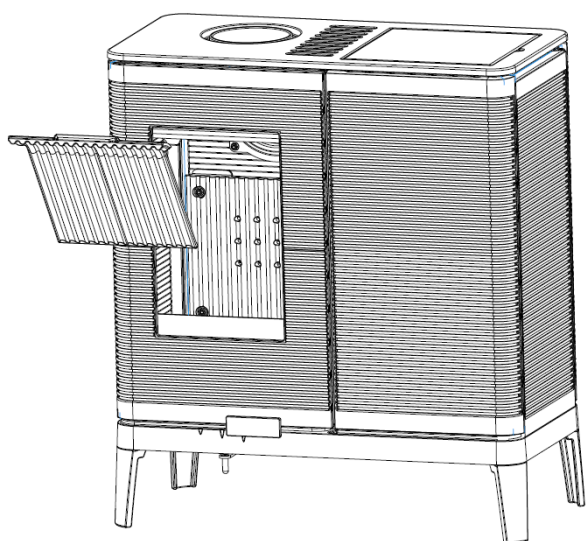
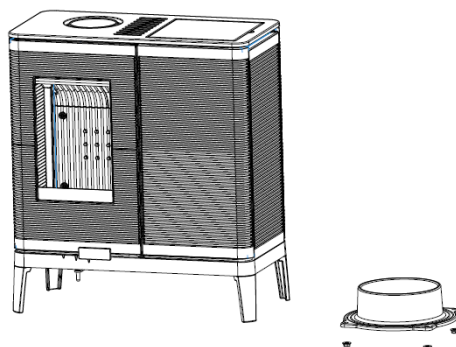
ドアを開きにくくするために調整用ウェッジを1個または2個取り外します

ドアを開きやすくするために調整用ウェッジを1個または2個取り外します

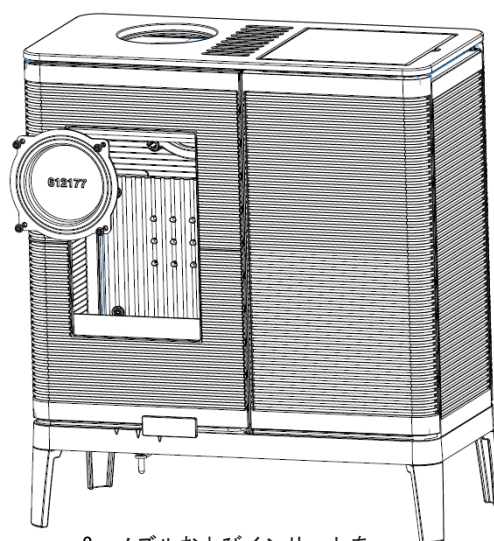
調整用ウェッジ



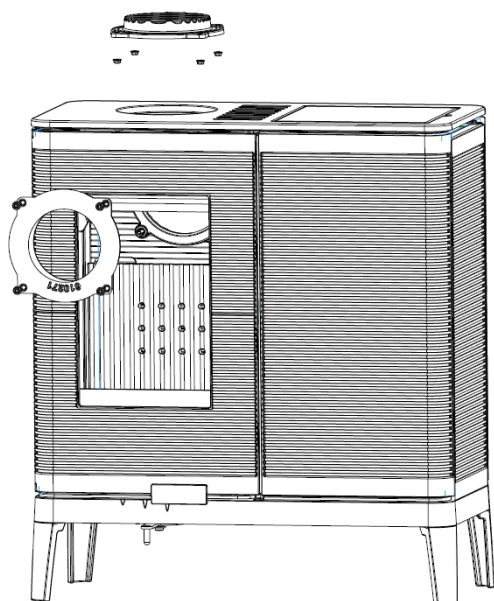
5 - 上部と後部排気の変換方法



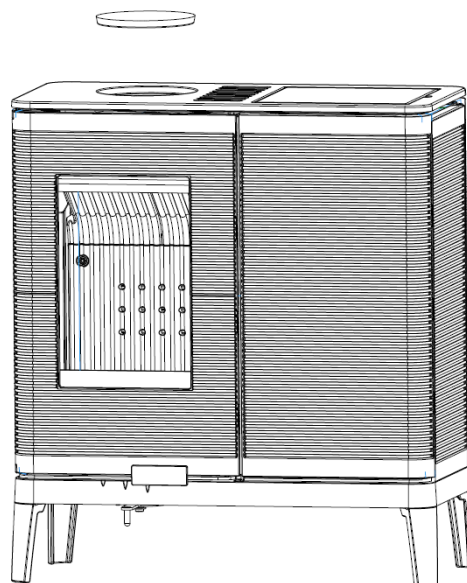
1 - デフレクターを取り外す。



2 - ノズルおよびインサートを取り外す。



3 - ノズルを反転させ、底部にベースを、フィードチャンネルにインサートを挿入します。



4 - デフレクターを元に戻し、装飾用インサートを交換します。